



あなたの手元に届くWebマガジン

おばこ稲作情報



2024年3月
No.4 8

JA秋田おばこ

営農指導員



ひふりふ

令和5年産米不作の要因 同じ轍は踏まれない やれることはやるべ!

穂数不足 (分けつ不足)

高温登熟

収量アップには初期分けつが必要!

①春先～初夏の気候変動に負けずに
生長する健苗育成

適期田植え

丈夫な苗

弁当肥・活着肥

令和時代も「苗半作」。ここ数年は気温のアップダウンが激しいので温度管理が大変です。ハウス内が暑くなりすぎないように低めの温度管理とします。田植え前には必ず追肥をしてください。田植え後の気温に負けず**活着・初期生育が良好**です!

②異常還元対策

乾田化促進

土づくり資材

耕深確保

飽水管理

せっかく健苗を植えてもワキによって生育停滞することがあります。今春は**耕起までに乾田化を進めることが重要**です。田植え後も、定期的な田面露出させてガス抜きが必要です。

③適切な植付け本数

栽植密度

植え込み本数

面積拡大により、栽植密度が疎植傾向となっています。そもそも、50株と70株では田んぼに植え込まれる苗の本数が違います。疎植小苗になっていませんか?かき取り本数を品種、栽植密度に応じて1~2本増やすなど調整をしてください。遅植えになるほど密植、大苗にしていかなければなりません。

産地の生き残りをかけた高温対策を!

ケイ酸を中心とした 土づくりの実践

やらねば
やんべく
なってきたす

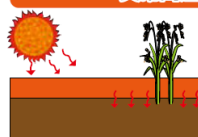
稲作の
足腰強化!

長年、ケイ酸を投入してきた産地では結果が出てきました。品質・収量の安定化には欠かせません。

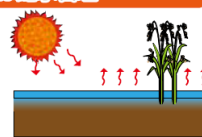
ケイカル:100kg/10a シリカ未来
けい酸加里 :60kg/10a

上記量投入が基本ですが、まずは1袋からでも入れなければ、今後も続く温暖化気象下での稲作はヒトもイネも耐えられません!

異常高温時は飽水管理



浅い湛水だとお湯になってしまい、熱が地面に伝わることで根の活力が低下しやすい



飽水管理だと気化熱により地温上昇を抑えることができる。

水管理で地を冷やす

飽水管理は、土の湿潤状態を保つ水管理。常時湛水状態とするのではなく、間断かん水の田面露出期間を長くするイメージです。特に高温時は気化熱により地温上昇を抑えることが出来ます。新潟地方では数年前から実践されている技術です。一方で、フェーンや強い「だし風(東風)」時は湛水管理が有効です。メリハリつけた水管理をお願いします。

地域で協力して水回しを!
みんなで乗り切ろう!

